

誠美だより

1

2015/JAN
誠美保育園

新年おめでとうござります

日本海側では大荒れの天気のまま年を越し、東京でも元日に雪が舞う、冷え込みの厳しいお正月でした。

その影響もあつたのか、年末に実施したキャンドルナイトでは、5 歳児とりの子どもたちが、園庭をキャンドルでうめたところまではよかつたのですが、いざ点火を始めて、思いの外、風が強力がわかりました。火を灯してみなければ、さほど気にならないほどの風だったのですが。

例年のこの時期は、ほぼ無風で、点火に手間取ることはなかつたので、すっかり油断をしていました。こうした原始的な作業を通すと、このような微妙な気候の違いもよくわかるし、ほんの少しの空気の動きが、次々とキャンドルの灯火を消し去ってしまうという、どうにもしようがない絶望感、自然の厳しさを教えてくれます。

見かねた職員たちも加わってくれたため、いいペースで点火が進むものの、その度に、ふわあつと撫げるような風が大半を消し去っていきます。それでも誰も点火の手を止めないので、中止の判断も鈍ります。

並べてくれた子どもたちには申し訳ないけれど、いよいよ覚悟を決め、皆に声を掛けようとした頃、全体に火が灯りつつあることに気づきました。風が止んでいたのです。私ひとりだったなら、とうに点火を諦めていたところでした。

園内に誰もいなくなった頃、あらためて見に来てくれた家族がありました。やつと今年見ることができたとのこと。流行りの電飾より温かみがあつて、ずつといいですねえ、との感想を頂きました。

電飾の変わりにと考えたわけでもないのに、なるほど今まで比べた事がない事に気づきました。温かみに加え、明るさのムラと揺れが人を誘うのでしょうか。

遠く北欧の国で、日本人が何か大きな賞を貰っていた事も思い出しました。今年も皆さんとって、明るい灯火の絶えない一年となりますように。

園長 折井誠司

進級・就学へ向けて

4 月まで、余すところ 3 ヶ月。進級、就学へ向けて、少しずつ雰囲気盛り上げ

ていきたいと思えます。

とりわけ、環境の変化が大きいのは、就学をする5歳児ですが、園内では、2歳児から3歳児への進級です。「生活が変わる」ということには、「人」「場」「時」の3つの要素があります。

- ・友だち、保育者(人)に慣れる。
- ・保育室(場)に慣れる。
- ・生活の流れ(時)に慣れる。

新年度に向け、これら一つ一つ、順を追って慣れていくことで、よりスムーズな進級を迎えることができると考えています。

保育室に関しても、2月初旬をめどに、5歳児(とり)が2歳児(はなぐみ)保育室を利用、その代わりに、はなぐみが担任共々1階へ移動し、徐々にかぜグループの生活に慣れていきます。5歳児(とり)は、かぜグループの活動をベースに、就学へ向けた独立した活動も増えていきます。

活動場所の移動で、送迎の場所等が変更になる際は、あらためてご連絡いたしますので、毎日の掲示板のご確認をよろしくお願致します。

芋を焼く



裏の畑で焼き芋をした。

そのため数日前から子どもたちも園庭の落葉を貯めてきてくれた。それに気づいた保護者からも、自宅の周辺を掃いたと

いって、ビニール袋で大量の差し入れもあった。子どもたちが焼き火隊を結成して、いっしょに火を育ててくれるのだが、実のところ、時折落葉をくれるくらいでそれ程仕事があるものでもない。本来、焼き芋というのは、芋を焼くことが目的なのではなく、落ち葉が終わるまでの間、暇つぶしに遊び半分です。芋を突っ込んでみようとというくらいのものであった。

かといって、ほどよい熾火を維持するというのは、この年の子どもたちには難しい。焼き火とは勘と経験がものをいう、ある意味、頭脳労働なのだ。

これこそ知識ではなく、経験を重ねること、火の動きとか性質のようなものを感じていくことしかないのであるが、それは、何度も火を絶やしてしまっただけで済ませられない。試行錯誤をしていくための、「経験の回数」が必要になる。

かつては、庭先で落ち葉を焚く大人がいた。その周りで子どもたちは遊んでいた。時折、焚き火にちよっかいを出しては、飽きてどこかへ行ってしまおうかと思つと、小枝を手に舞い戻ってくる。そうやってだんだんに火に馴染んでいった。そんな時代があった。

日常的な野焼きが禁止され、生活から切り離

され、その必要性さえも失った今、芋を「焼くため」、ガス台でもレンジでもホットプレートでもなく、焼き火をするという一時の経験。その意味とは何なのだろうか。「目にしてみる」と言つて煙から逃げ回る子どもたちを眺めながら。経験のあり方を。考えてしまった。まあ「煙は目にしてみる」という事も、ひとつの大事な経験なのかもしれない。

火の始末を終え、一汗かいたところへ、職員が麦茶を届けてくれた。それも特別、水入り。傍に置いて作業を続けていると、目ざとくコップを見つけた子どもが近づいてきた。

「園長先生、ちよつともらつてもいい？」すると、その姿を見かけた別の子ども「俺も！」とコップを傾ける。するともう一人。三人で「もちよつとだけ」と回し飲みが始まる。

そんな微笑ましい様子を、腕を組んで目を細めて眺めている。そんな甘い園長ではない。なんだって水入りなのだから。「おいおい。自分たちの分、部屋のヤカンにあるだろう。」

「じゃあ、またもらつて来てあげる。」中でも一番気の効かなそうな子が、珍しく空のコップを持って走っていった。

再び麦茶で満たされたコップを受け取ると、まずはその中を覗き込む。かるうじて溶けずに残っている氷が確認できた。まあよからう。

三口ほど口を付けて傍に置きやいなや、「じゃあ」と伸びる二本の腕を、私は見逃さな

<http://hoikuen.jp/higenote/>

小山内裏公園「どんど焼き」

1月12日(月)の10時～15時、小山内裏公園で「どんど焼き」が開催されます。地域によって色々なやり方がありますが、昔からこの地域に伝わる方法で行われるそうです。お正月飾りを持ってお出かけになつてはいかがでしょう。

詳しくは、<http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index064.html>

カレンダー	
6 (火)	発育測定 (0 1 2)
7 (水)	発育測定 (K)
9 (金)	餅つき会
13 (月)	防災訓練
15 (水)	乳児健診
18 (日)	地域餅つき会
22 (木)	誕生会
1月	

- 編集 誠美保育園
- 編集人 折井誠司
- 発行人 折井誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 誠美保育園

〒192 0364 東京都八王子市南大沢5-1-2

電話 042-675-1551

ファックス 042-677-5643

E-mail seib@hoikuen.jp

<http://hoikuen.jp/>